

現場  
最前線

十文字地域多目的総合施設建設工事  
(建築本体工事)

同施設近くに建つ十文字地域局は、旧十文字町庁舎を市町村合併後もそのまま活用して行政サービスを提供してきたが、老朽化が進行。同じく近隣にある幸福

会館や十文字文化センターの機能の一部を引き継いで、多目的施設として改築することとなった。施工地は横手市十文字町海道下12の5ほか地内の9

工期は2019年7月17日から。高力ボルトの不足が課題となっていたため、発注時期を早めて材料を確保する発注者側の意図からだが、冬期休業前に土間コンクリートの打設を終える

工期短縮に威力を発揮したのが、県内初採用のロールマット工法だ。専用の機械でロール状に先組みしたスラブ筋を工場から輸送し、現場で転がして並べる工法で、屋上部分の敷設面



写真右側が交流ホール

行政、生涯学習の機能持つ新拠点

372平方メートル。S造平屋建て、延べ2266平方メートルの施設のうち、玄関ホールから左手は、行政エリアとしてオープンフロアの執務室や会議室、備蓄倉庫、機械室などを配置する。

また、当初に組んだマスター工程では、外壁まで躯体が出来上がっても事業費ベースで完成度が50%以下で、残る3カ月で内装工事を仕上げる必要があったため、「それまでの工期をできるだけ短縮し、内装への移行時期の前倒しを心掛けた」と石橋所長は振り返る。

作業員からは、最初こそ戸惑いの声も聞かれたが、スピードと高い精度、運搬労力の軽減などから反応は良好だ。「従来工法では、鉄筋を組んだ後、他の作業をしているうちに配置が乱れることもあるが、その心配がない。段取りさえしつ

右手側は、生涯学習エリアとの位置付け。広い交流ホールは可動間仕切りで三つに仕切れることもでき、北側の壁面は階高4.5メートルのうちほとんどが窓で、明るい印象。12台に分割して移動・撤去できるポータブルステージや、200センチの電動スクリーンを備える。3室あるスタジオは音の出る生涯学習活動や踊りに使用でき、大きな鏡のある部屋も。このほかに保健指導室や調理実習室、和室と洋室の会議室も配置されている。

作業員からは、最初こそ戸惑いの声も聞かれたが、スピードと高い精度、運搬労力の軽減などから反応は良好だ。「従来工法では、鉄筋を組んだ後、他の作業をしているうちに配置が乱れることもあるが、その心配がない。段取りさえしつ

「不特定多数の方が利用する施設のため、見栄えはもちろん機能面についても発注者、設計者と協議を重ねてきた。安全面においても気を抜かず、無事故無災害で完成させたい」と石橋所長。

372平方メートル。S造平屋建て、延べ2266平方メートルの施設のうち、玄関ホールから左手は、行政エリアとしてオープンフロアの執務室や会議室、備蓄倉庫、機械室などを配置する。

作業員からは、最初こそ戸惑いの声も聞かれたが、スピードと高い精度、運搬労力の軽減などから反応は良好だ。「従来工法では、鉄筋を組んだ後、他の作業をしているうちに配置が乱れることもあるが、その心配がない。段取りさえしつ

「不特定多数の方が利用する施設のため、見栄えはもちろん機能面についても発注者、設計者と協議を重ねてきた。安全面においても気を抜かず、無事故無災害で完成させたい」と石橋所長。

発注者 横手市  
設計・監理 近建築設計事務所・ミツイ設計・ひかり建築設計JV  
施工 伊藤建設工業・大和組・横手建設JV

カウンターの奥が執務室

交流ホール



と言え、省力化できる新工法が求められている」と石橋所長。在来工法よりコストはやや増し、まだ工場が関東にしかなく、運搬費も大きいのが、「2000〜3000メートル程度の需要があれば東北エリアに工場ができるかもしれない」との思いもあつて着工前から

かりできれば作業自体は比較的難しくないのですが、熟練者が数人付けば他の作業員の練度が低くても問題なく施工できるはず」と石橋所長は展望する。

種々の取り組みで  
内装工事の工期確保へ

工程上は、下部と上部の工区区分と施工順序が異なるのも特徴。基礎・地中梁は、機械室があり配管が集まる東側の行政エリア側から工区を三つに分け順次施工し、土間は二つに工区分け。一方で鉄骨・躯体工事は西側から3工区に区切つての施工。これも工期短縮のための措置だ。

7月末の取材時には外部は概成。通路の床貼りや家具の取付け、建具の吊り込みなどの作業を行っていた。作業員には、現場が散らかつていてと事故が起きるおそれとして「一仕事一付け」を呼び掛け無事故無災害を継続中。道の駅や十文字地域局のほか、小学校や商工会議所なども周辺に建つ立地から、搬入計画立案や交通指導にも十分配慮し、誘導員の配置も徹底している。さまざまな現場で「見える化」を推進しており、文言ではなく絵などで視覚的に判断できる表示の採用や、具体的な写真などをパワーポイントで見せる新規入場者教育、電子黒板などの活用といった工夫も光る。

「不特定多数の方が利用する施設のため、見栄えは もちろん機能面についても発注者、設計者と協議を重ねてきた。安全面においても気を抜かず、無事故無災害で完成させたい」と石橋所長。

「高齢化が進む業界の中でも、材料運搬の労力が大きい鉄筋工は高齢化と入職者不足の影響が特に大きい

「高年齢が進む業界の中でも、材料運搬の労力が大きい鉄筋工は高齢化と入職者不足の影響が特に大きい

利用者の高い関心に応えるため、発注者と設計者は関係者向けに内装の見本資料やVRデータを作り、完成後には内覧会も予定している。地区住民のニーズを満たす新しい十文字の拠点の供用はもうすぐだ。



伊藤建設工業の石橋現場所長



ロールマット工法の施工状況